

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

事業所名: グループホーム めだかの学校

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人がその人らしく暮らせる為に家庭的な雰囲気の中で安心して、安全に配慮しながら支援する為の理念がある。	○
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	知識や技術を学び、日々利用者に関わる際 理念に添って取り組んでいる。	○
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族の訪問時、折に触れ伝えている。また「地域と交流を持ち役割や課題を地域に発信し支えあう町作りに参加する」理念に基づいて取り組んでいる。	○
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	民家を改造した作りであり、利用者にとっては 自宅で過ごしていると思ってもらえる。食器も陶器を使い、季節が感じられる工夫として花を飾ったり、作品を展示している。	○
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭等に利用者と共に参加している。地域の行事で交流が深まり支援していただいている。	○

事業所名: グループホーム めだかの学校

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者会・いきいきサロンに参加させてもらい介護予防教室・口腔ケア教室が開催できた。	○ 下新町公民館、西後屋敷公民館にて行った。介護予防教室、認知症の理解や接し方の勉強会・口腔ケア教室を行い寝たきりの人のケア・嚥下体操・入れ歯のケア等の指導勉強会をした。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全員で行い、ケアの向上に努めている。また運営推進会議にて評価を伝え改善への協力が得られた。	○
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者参加の会議で、実際に報告しながら、率直な意見を得ている。評価で明らかになった課題については、取り組み内容を報告し、意見をもらっている。	○ 地域の人達に認知症の理解を得られる工夫として、提案したことが地域での勉強会につながった。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現場や利用者さんの課題や問題点を理解し、解決を図っていく為には市町村担当者とも、実態を共有したく、ホームの行事に誘っている。	○
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修受講後職員に、理解を得るための説明をした。対応が必要と思われる利用者がでた場合は 支援に結び付けて行きたい。	○ 社会福祉協議会主催の研修に参加した。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議やミーティングに勉強会を行って、虐待が見過ごされる事のないよう努力していきたい。	○

事業所名: グループホーム めだかの学校

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくり時間をとって丁寧に説明している。ホームの考え方日中の様子を観察してもらい理解を得ている。	○	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、利用者との会話を多く持つ機会を設けているが、ボランティアの人を介しても意見、不満、苦情を表せるようにして、毎日の生活を工夫していきたい。	○	台所の壁に利用者と相談して書いた「私たちの願い」が掲示してある。時々利用者にも読んでもらっている。“大きな声で話してください。出来る事はさせてください。私たちの意見を取り上げてください。皆と仲良くさせてください。”など・・・。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	訪問時には 日々の様子がわかる ケース記録を読んでもらい又金銭出納簿を確認してもらってサインを頂いている。	○	ケース記録を読んで日々の様子から、確認と安心のコメントを記入して頂いている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見等が気軽に交換出来るように、1日行楽などの行事に誘い家族が安心して頂けるよう心がけている。運営推進会議に参加いただいた市の職員より外部者からの意見を聞き、職員会議に図りサービスの向上に努めている。	○	玄関に意見箱を置いている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との意見交換は、毎日行なっていて、コミュニケーションを取りながら意見や提案を聞くようにしているが、不満はなかなか言いにくいこともあると思う。	○	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況の変化に対応出来るように職員に協力してもらっている。	○	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係がすでに築かれていて支援し対応している。新しい職員が入った時は利用者で紹介して互いに混乱しないように努力している。	○	

事業所名: グループホーム めだかの学校

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	絵手紙教室の見学をさせてもらい、意見交換出来たことで 我がホームでも実践できた。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	○	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	○	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○	

事業所名: グループホーム めだかの学校

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の思いを聞き、必要な支援、サービス内容を相談して対応に努めた。	○	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	初期の対応として、本人と家族が見学したり遊びに来て他の利用者や、職員と顔馴染みになって、安心してもらえるように工夫した。	○	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族から本人の生活歴を聞き、本人の喜怒哀楽を共感できる場面作りをした。	○	本人の得意としている教育勅語や歌を皆で聞き共にしている。又本人の写真集や趣味の作品を預かり、混乱時安心につなげている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ケース記録に日々会話、行動、その日の様子を詳しく記入して訪問時確認していただいている。一緒に本人を支えていく関係として、行事に参加してもらっている。	○	湯村温泉常盤ホテルに家族参加で1泊をした。家族も楽しみにされ毎年春に宿泊している。(H19、43名)H17、H18も実施した。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の状況を見極めながら外出や外泊を勧めたり、ホームから自宅で家族と過ごせる場面を設定した。	○	3組の家族は、外泊を楽しむことが出来るようになった。ホームの1日行楽で甲府の動物園へ行く途中利用者1人が近くの自宅で家族と過ごせるよう時間を取り、動物園の帰り利用者を自宅に迎えに行きホームに戻った。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族から知り得た生活歴から馴染みの人場所が途切れないように支援している。	○	家族と外出の際、墓参りをしたり、馴染みの場所を訪問してもらっている。また電話や手紙を利用して、入所前に支えて頂いていた友人にも訪問してもらっている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が支え合い、暮らしてゆくように支援している。	○	仲良く過ごせる様に1人1人が得意としている事が発揮出来る様に相談しながら支援している。毎朝利用者さんと掃除が終わるとお茶を飲みながら、新聞を読んでもらったり職員が読んだりして自分の自宅周辺の地名や記事を確認してもらっている。

事業所名: グループホーム めだかの学校

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	つきあいを大切にしている。	○	長期の入院中に見舞いに行ったり、葬儀には、職員・利用者全員が参列してお別れした。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉や表情から何をしたいのか日々かかわりを持つ中、職員同志確認するようにしている。	○	意思の疎通が困難でも傍に寄り添い思いを聞くことで落ち着いている。帰宅願望の訴えが、激しい人は本人の思いに添うよう一緒に歩くので、チームワークが重要である。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の今までの生活歴は入所時、訪問時に経過は聞いている。	○	センター方式のシートを使いその人を知る為の把握に努めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活のリズムを把握する為の努力をしている。	○	その人らしく生活するために出来る事、出来ない事シート わかることわからないことシート、生活リズムシートを使っている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族が面会時、その時の問題点等を相談し、思いや意見を聞きながら、カンファレンスで意見交換して介護計画を作成している。	○	介護計画を読んで、内容を確認してもらいサインを頂き支援につなげている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個人のケース記録は、1日の様子が詳しく書いてある。特に変化が見られない時は計画の見直しはせず本人が自分で今の様子や思いを記録に書いてもらっている。通常は半年に1度見直しとしている。	○	入院等あった場合は、一ヶ月・三ヶ月の計画を立てる。

事業所名: グループホーム めだかの学校

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	○	記録は昼、夜とボールペンの色を替え記入し、家族に記録のサインをしてもらうときは赤のインクと決めている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	○	地域の文化祭へホームの作品を展示。ホームで習字・絵てがみの教室をしている。山梨市高齢者作品展にも出展させていただいた。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	○	1ヶ月半に1度利用している。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	○	運営推進会議に参加いただいて意見交換しながら情報をいただいている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	○	

事業所名: グループホーム めだかの学校

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者がかかりつけ医としている。家族同行受診だが、常に治療が受けやすいように支援している。	○	
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を確保して、健康管理や医療に関する相談をしながら対応をしている。	○	
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、家族の了解を得て情報を医療機関に提供して頻繁に見舞うようにした。家族とも情報交換して、対応可能な段階でなるべく早く退院出来るよう支援した。	○	家族、医療機関、施設との連携により早期退院につながった。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方は、医療の力が必要とされるまでかかりつけ医の協力を得ながら健康管理や急変時に対応出来るように話している。家族にも訪問時に話している。	○	
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人と家族の気持ちを大切に、安心して終末期が送れるようにかかりつけ医と相談した。今は重度化した利用者がいないがこれから急変したり変化に備え、夜間の往診の対応も検討してもらっている。	○	
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の施設に移り住む際、関係者と話し合い、ホームでの支援状況を伝え、なるべく同じ支援が出来るようにきめ細かい連携に努めた。	○	

事業所名: グループホーム めだかの学校

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	○	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	○	いままでの生活の延長で食事作り、配膳・下膳・片づけ・掃除も掃除機・雑巾・・・とその日、その時自分で納得出来る決め方をしてもらっている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○	個人・個人の得意としている事を見極め、合わせて支援している。はさみを使用してまっすぐに線が切れる人。洗濯物がとても気になる人。食事の後片づけが得意な人。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	○	行事の際は、おしゃれをして化粧の支援もする。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	○	巻き寿司・煮物・煮豆・ほうとう・焼きそば作りをした。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○	

事業所名: グループホーム めだかの学校

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	1日の流れに沿ったトイレ誘導を心掛けている。その人のパターンを把握するために排泄チェック表を使用し、時間を見計らってトイレ誘導をしている。	○	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個別に合った入浴が理想だがホームとしては、日中の午前・午後と決めている。またその時の場面、タイミングでシャワー浴の時もあり清潔保持に努めている。入浴を拒否する利用者にはことば掛けの工夫や対応の工夫をしている。	○	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その時の状況に応じて休息を促している。日中はなるべく体を動かして就寝時にゆっくり休めるように支援している。	○	周辺を散歩したりラジオ体操をしている。又春日居駅前の足湯に行くこともある。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	楽しみや役割を持ってもらうように、畑に野菜を作ったり、得意分野を知り出来るだけ発揮出来る為の支援をしている。	○	草取り・料理・踊りの気晴らし支援。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎週月曜日にパン屋がホームに来るのでお財布を渡して、好きなものを買っている。	○	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月1回のペースで足湯・買い物に外出している。その他は、季節や温度を体験してほしく散歩を楽しむ事もある。	○	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	1人の利用者は、普段の生活から個別に聞き得た思いを叶えられるように家族に伝え家族と故郷へ帰り墓参りをしたり近所の人に会って話をし、家族と温泉に宿泊した。また家族参加で利用者9名と温泉に宿泊した時は、舞台付きの宴会場を使って歌ったり踊ったり、家族・利用者と一緒に残る木槌を打った。	○	

事業所名: グループホーム めだかの学校

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その時、その場面に電話や手紙で元気を互いに確認し、安心を確かめている。	○	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問出来るような雰囲気作りを心掛けている。	○	
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアに取り組んでいる。	○	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族の理解を得て玄関に鍵をかけている。外出したい場面に気づいたら一緒に歩いたり、後ろから付いて行き先などを知る取り組みをしている。安全を求め施錠しているがその場面に応じて取り組んでいる。	○	建物の周囲は、塀も無く隣りは、スポーツジムがあり危険と隣り合わせの為安全を求め施錠した。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	全員の状況を把握するよう努めている。夜は時間が23時、3時と利用者を確認する事になっているが、利用者が起きた時、音、声で側に行き安全に配慮しながら対応している。	○	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	厳重に管理すべき物、保管管理が必要な物、普段使う道具で注意が必要とされる物と分けて管理している。	○	薬・薬品・包丁は、施錠出来る場所に保管している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止の取り組みとして常日頃から事故防止に努めている消防署の指導で夜間を想定した訓練や緊急時の対応マニュアルがある。	○	毎月自主防災訓練をして 利用者の動きの観察をしている。

事業所名: グループホーム めだかの学校

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員とまでいかないが、消防署の協力を得て救命救急や蘇生の訓練をした。	○	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を経て避難訓練、避難経路、消火器の使い方などの訓練をした。	○	月1回 夜間を想定した訓練をしている。運営推進会議に地域の消防団員の参加をお願いしている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	自由な暮らしを望み、家族も承知してもらっている。普段の生活を訪問時に伝え楽しんで、生き生き生活している事を喜んでいる。	○	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化の異変に気づくように常に早期発見に努めている。ケース記録の他に申し送りノートに記入して情報を共有し、対応している。時には病院を受診するときもある。	○	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のケース記録に整理してある。看護職員が理解しており対応している。いつでも細かい記録をケース記録に記入してある。	○	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	取り組んでいる。繊維質の多い食材を多く取り入れ、水分摂取が少ない人には、シートに記入し 共有する時もある。常に体を動かし自然排便を促す工夫をしている。	○	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口の中をケアする必要性は職員はすべて理解している。食後必ず全員ケアしている。	○	職員の中に歯科医師がいる。

事業所名: グループホーム めだかの学校

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立等を管理栄養士に相談して指導いただいている。食事の摂取量等を記録にとっている。	○	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ホームで独自のマニュアルを作り感染症の対応に対して実行している。	○	衛生面でタオルの共有をせず、毎朝洗面後個人のズボンにタオルを結びつけて使用している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきん等は、毎晩漂白し清潔を心がけている。特に台所の水周りは、清潔保持に努めている。食材は、本部より届くが日付けをチェックして管理している。	○	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	親しみやすく、訪ねてもらえる玄関で建物周辺は、さざんかの生垣があり、縁側もありベンチもある。	○	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を改造した作りであり、利用者にとっては自宅で過ごしていると思ってもらえている。食器も陶器を使い、季節が感じられる工夫として花を飾ったり、作品を展示している。	○	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごす場所とまでいかないが広い廊下にソファを置いている。	○	

事業所名: グループホーム めだかの学校

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に相談して本人の馴染みの 使い慣れたものを居室に置くようにしている。使い慣れた布団。本人が家族を忘れない為の工夫として家族の名前や写真を貼っている。	○	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冷暖房に頼らずいつも換気に注意して温度差を気にしている。	○	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者に合わせて手すりやトイレ等自立を意識した工夫をしている。	○	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	歩行が思うように出来ない利用者さんが1ヶ所に手すりを付けただけで一人で歩けるようになった。必要な場所に取り付けた事で安心につなげた。	○	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に畑があり季節に野菜が収穫出来る。入り口には縁側があり日向ぼっこができる。季節には庭でバーベキューをして楽しんだ。	○	

事業所名: グループホーム めだかの学校

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

年に一回家族と一緒に温泉に一泊している。ほぼ毎月自衛消防訓練を行なっている。地域の公民館で認知症教室口腔ケア教室を開催している。ボランティアによる習字、絵手紙、歌のビデオ支援を受けている。色画用紙を利用し巻紙アートをリハビリ作業として活動している。運営推進会議を通じて地域との交流を深めている。